

2.2 生活環境の概要

2.2.1 大気質

「平成 30 年度の大気汚染状況」、「平成 30 年度ダイオキシン類環境調査結果」(2019 年 7 月 大阪市ホームページ) 及び「大阪市環境白書(平成 30 年度版)」(大阪市環境局)によると、事業計画地周辺における大気質の現況は以下のとおりである。

なお、大阪市内における大気汚染常時監視測定局の配置は図 2.2.1 に、事業計画地周辺の測定局における測定結果の概要は表 2.2.1(1)、(2)に、それぞれ示すとおりである。

(1) 二酸化窒素 (NO₂)

事業計画地から最も近い住之江区の南港中央公園測定局の、平成 30 年度における二酸化窒素の日平均値の年間 98%値は 0.045ppm であった。そのほか住之江区では、清江小学校測定局、北粉浜小学校測定局、住之江交差点測定局で測定が行われており、それぞれ 0.036ppm、0.039ppm、0.042ppm であった。また、此花区では此花区役所測定局で 0.041ppm であった。

なお、平成 30 年度の市内における環境基準達成状況は、一般環境大気測定局(以下「一般局」という。)13 局及び自動車排出ガス測定局(以下「自排局」という。)11 局の全局で達成した。

(2) 浮遊粒子状物質 (SPM)

事業計画地から最も近い南港中央公園測定局の、平成 30 年度における浮遊粒子状物質の日平均値の 2%除外値は 0.036mg/m³ であった。そのほか清江小学校測定局、北粉浜小学校測定局においてそれぞれ 0.041mg/m³、0.049mg/m³ であった。また、此花区役所測定局で 0.036mg/m³ であった。

なお、平成 30 年度の市内における環境基準達成状況は、一般局(14 局)及び自排局(9 局)の全局で達成した。

(3) 微小粒子状物質 (PM_{2.5})

事業計画地から最も近い南港中央公園測定局の、平成 30 年度における微小粒子状物質の年平均値及び日平均値の年間 98%値は 15.2 µg/m³ 及び 32.8 µg/m³ であった。そのほか北粉浜小学校測定局で 15.4 µg/m³ 及び 34.4 µg/m³ であった。また、此花区役所測定局で 12.8 µg/m³ 及び 29.2 µg/m³ であった。

なお、平成 30 年度の市内における環境基準達成状況は、一般局 7 局のうち 5 局、自排局 5 局のうち 3 局で達成した。

(4) 光化学オキシダント (O_x)

事業計画地から最も近い南港中央公園測定局の、平成 30 年度における光化学オキシダントの昼間(午前 6 時から午後 8 時)の 1 時間値の年平均値は、0.023ppm であった。そのほか清江小学校測定局で 0.030ppm であった。また、此花区役所測定局で 0.027ppm であった。

なお、平成 30 年度の市内における環境基準達成状況（短期的評価）は、前年度に引き続き一般局（13 局）の全局で達成しなかった。

(5) 二酸化硫黄（SO₂）

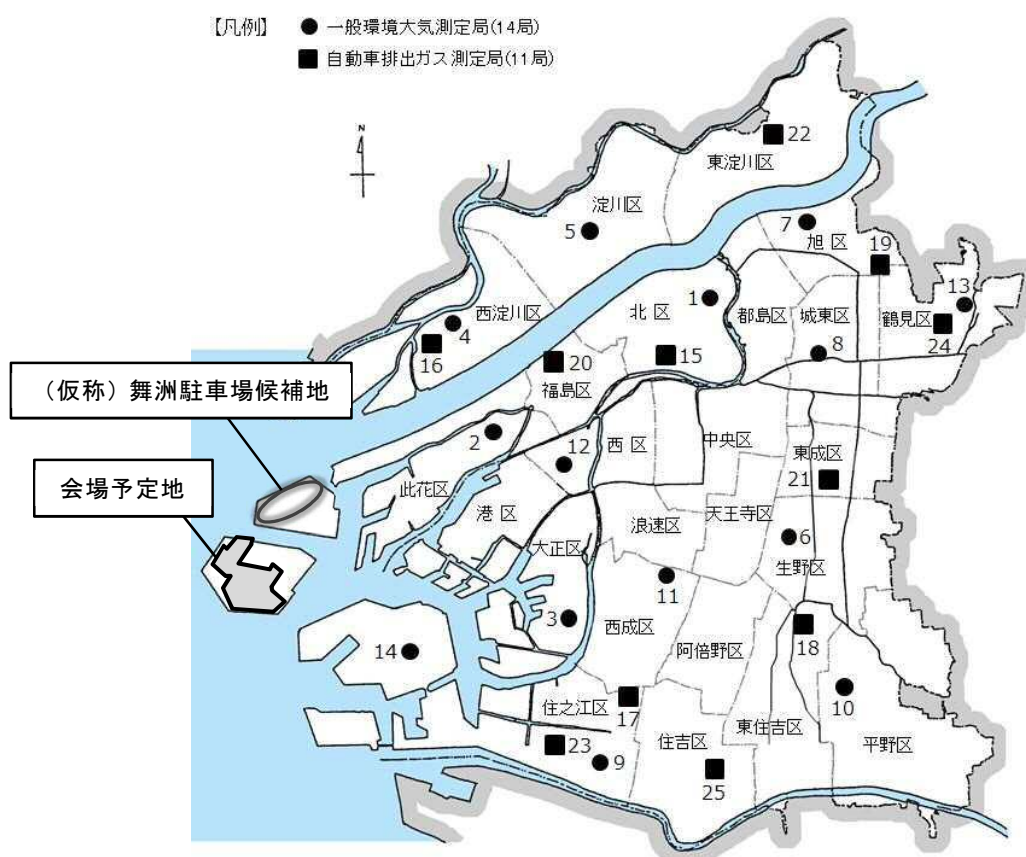
事業計画地から最も近い南港中央公園測定局の、平成 30 年度における二酸化硫黄の日平均値の 2%除外値は 0.009ppm であった。そのほか清江小学校測定局で 0.015ppm であった。また、此花区役所測定局で 0.007ppm であった。

なお、平成 30 年度の市内における環境基準達成状況は、一般局（10 局）及び自排局（2 局）の全局で達成した。

(6) 一酸化炭素（CO）

此花区、港区、住之江区では一酸化炭素の測定は行われていない。事業計画地から近いところでは、西淀川区の出来島小学校測定局で行われており、平成 30 年度における日平均値の 2%除外値は 0.5ppm であった。

なお、平成 30 年度の市内における環境基準達成状況は、自排局（3 局）の全局で環境基準を達成した。



出典：「大気環境の状況」（2019 年 7 月 大阪市ホームページ）

図 2.2.1 大気汚染常時監視測定局の配置

表 2.2.1(1) 大気質の測定結果の概要（一般環境大気測定局）

番号	測定局名	二酸化窒素(NO ₂)			浮遊粒子状物質(SPM)				微小粒子状物質(PM _{2.5})			光化学オキシダント(O ₃)				二酸化硫黄(SO ₂)			
		年平均値	日平均値の年間98%値	環境基準達成状況	年平均値	日平均値の2%除外値	基準超過が2日以上連続の有無	環境基準達成状況	年平均値	日平均値の年間98%値	環境基準達成状況	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数	環境基準達成状況	年平均値	日平均値の2%除外値	基準超過が2日以上連続の有無	環境基準達成状況
		(ppm)	(ppm)		(mg/m ³)	(mg/m ³)			(μg/m ³)	(μg/m ³)		(ppm)	(日)	(時間)		(ppm)	(ppm)		
2	此花区役所	0.020	0.041	○	0.018	0.036	無	○	12.8	29.2	○	0.027	51	212	×	0.003	0.007	無	○
9	清江小学校	0.018	0.036	○	0.017	0.041	無	○	—	—	—	0.030	67	316	×	0.006	0.015	無	○
14	南港中央公園	0.022	0.045	○	0.017	0.036	無	○	15.2	32.8	×	0.023	42	138	×	0.004	0.009	無	○
市内平均		0.018	—	13 — 13	0.018	—	—	14 — 14	14.0	—	5 — 7	0.030	60	278	0 — 13	0.004	—	—	10 — 10
環境基準		日平均値の年間98%値が0.06ppm以下であること。			日平均値の2%除外値が0.10mg/m ³ 以下であり、基準超過が2日以上連続しないこと				1年平均値が15μg/m ³ 以下であり、かつ日平均値の年間98%値が35μg/m ³ 以下であること			1時間値が0.06ppm以下であること				日平均値の2%除外値が0.04ppm以下であり、基準超過が2日以上連続しないこと。			

表 2.2.1(2) 大気質の測定結果の概要（自動車排出ガス測定局）

番号	測定局名	二酸化窒素(NO ₂)			浮遊粒子状物質(SPM)				微小粒子状物質(PM _{2.5})			一酸化炭素(CO)				二酸化硫黄(SO ₂)			
		年平均値	日平均値の年間98%値	環境基準達成状況	年平均値	日平均値の2%除外値	基準超過が2日以上連続の有無	環境基準達成状況	年平均値	日平均値の年間98%値	環境基準達成状況	年平均値	日平均値の2%除外値	基準超過が2日以上連続の有無	環境基準達成状況	年平均値	日平均値の2%除外値	基準超過が2日以上連続の有無	環境基準達成状況
		(ppm)	(ppm)		(mg/m ³)	(mg/m ³)			(μg/m ³)	(μg/m ³)		(ppm)	(ppm)			(ppm)	(ppm)		
16	出来島小学校	0.025	0.043	○	0.020	0.045	無	○	13.4	29.3	○	0.3	0.5	無	○	0.004	0.008	無	○
17	北粉浜小学校	0.021	0.039	○	0.020	0.049	無	○	15.4	34.4	×	—	—	—	—	—	—	—	—
23	住之江交差点	0.025	0.042	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
市内平均		0.023	—	11 — 11	0.020	—	—	9 — 9	13.8	—	3 — 5	0.3	—	—	3 — 3	0.004	—	—	2 — 2
環境基準		日平均値の年間98%値が0.06ppm以下であること。			日平均値の2%除外値が0.10mg/m ³ 以下であり、基準超過が2日以上連続しないこと				1年平均値が15μg/m ³ 以下であり、かつ日平均値の年間98%値が35μg/m ³ 以下であること			日平均値の2%除外値が10ppm以下であり、基準超過が2日以上連続しないこと。				日平均値の2%除外値が0.04ppm以下であり、基準超過が2日以上連続しないこと。			

- 注1. 各項目の市内平均の年平均値欄の数字は、各測定局の年平均値の平均を示す。
 2. 各項目の市内平均の環境基準達成状況欄の数字は、（環境基準達成局数）／（有効測定局数）を示す。
 3. 環境基準達成状況については、光化学オキシダントを除き長期的評価による。

出典：「平成 30 年度の大気汚染状況」（2019 年 7 月 大阪市ホームページ）

(7) ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン

此花区、港区、住之江区では測定が行われていない。事業計画地から近いところでは、西淀川区の出来島小学校測定局で平成 29 年度におけるベンゼンの年平均値が 0.78 μg/m³、大正区の平尾小学校測定局でジクロロメタンの年平均値が 2.9 μg/m³であった。

なお、平成 29 年度の市内 4 地点における環境基準達成状況は、表 2.2.2 に示すとおり、一般局（3 局）、自排局（1 局）の全局で達成した。

表 2.2.2 平成 29 年度の有害大気汚染物質のモニタリング結果

(単位：μg/m³)

物質名 (番号) 測定局名	(1)	(10)	(3)	(16)	市内 平均	環境基準 【指針値】
	北区 菅北小学校	平野区 摂陽中学校	大正区 平尾小学校	西淀川区 出来島小学校		
ベンゼン	0.57	0.54	－	0.78	0.63	3 μg/m³ 以下
トリクロロエチレン	0.60	1.2	－	－	0.90	200 μg/m³ 以下
テトラクロロエチレン	0.22	0.17	－	－	0.20	200 μg/m³ 以下
ジクロロメタン	2.0	3.1	2.9	－	2.7	150 μg/m³ 以下

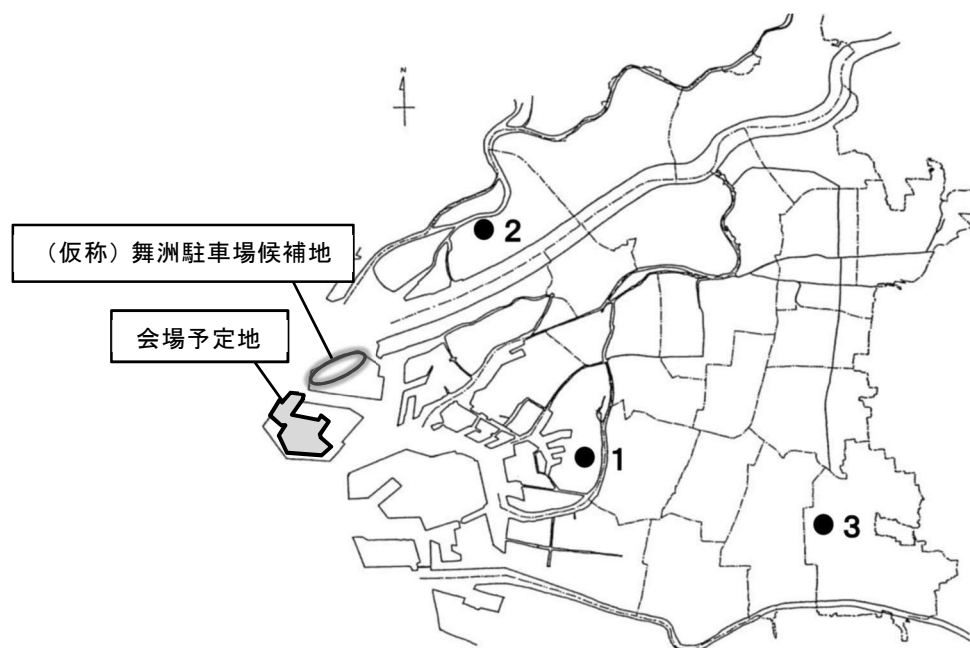
注 1)：番号は図 2.2.1 に対応している。

出典：「大阪市環境白書（平成 30 年度版）」（大阪市環境局）

(8) ダイオキシン類

平成 30 年度のダイオキシン類（大気）の調査地点及び結果は、図 2.2.2 及び表 2.2.3 に示すとおりである。此花区、港区、住之江区では調査は行われていない。事業計画地から近いところでは、大正区の平尾小学校で年間平均値が 0.030pg-TEQ/m^3 、西淀川区の淀中学校で 0.031pg-TEQ/m^3 であった。

なお、市内の年間平均値の範囲は $0.030\sim 0.034\text{pg-TEQ/m}^3$ であり、調査地点（3 地点）全てで環境基準（ 0.6pg-TEQ/m^3 以下）を達成した。



出典：「平成 30 年度ダイオキシン類環境調査結果」（2019 年 7 月 大阪市ホームページ）

図 2.2.2 平成 30 年度のダイオキシン類（大気）の調査地点

表 2.2.3 平成 30 年度のダイオキシン類（大気）の調査結果

(単位： pg-TEQ/m^3)

No.	調査地点	年間測定回数	測定結果の 最小値～最大値	平成 30 年度 年間平均値
1	(大正区) 平尾小学校	2	0.027～0.033	0.030
2	(西淀川区) 淀中学校	2	0.025～0.036	0.031
3	(平野区) 摂陽中学校	2	0.028～0.039	0.034

出典：「平成 30 年度ダイオキシン類環境調査結果」（2019 年 7 月 大阪市ホームページ）